

椋野みちこ市長に要望書を手渡す

「くらしと平和を守る日田地区連絡会」（代表・栗山崇）は8日、物価高や豪雨災害でくらしが大変な市民と中小業者の要望（左の10項目）を市長に手渡しました。

くらしと平和を守る日田地区連絡会は、椋野市長に要望書を手渡し、懇談しました。

今年7月の豪雨で被害を受けた女性は「災害復旧の負担をないようにしてもらいたい」と訴えました。別の女性は「女性の市長は初めて。子育ての苦勞を一番わかってくれるのではないかと期待が大きい。給食費が月に子どもひとり5千円、2人だと1万円になっている。物価高の中、生活に相当ひびいている」と訴えました。

椋野市長は「生活がきびしい家庭では給食が重要。だからと言って所得制限をつけてということではなく、給食費の無償化は全部の子どもにしたい。これを最優先でやりたい」と答えました。

参加者全員が市長に思いを語り、和やかな懇談となりました。

椋野市長は12日、大谷市議の給食費無償化を求める質問に「来年4月からの実施に向けて準備を進めている」と答えました。



▶ 椋野みちこ市長に要望書を手渡す栗山崇さん（左から2人目、市長応接室）。

市民のくらしと営業を守る要望

物価高や豪雨災害

1. 子育て世帯への支援として
 - ① 高校生まで医療費の無料化を実施すること。
 - ② 国民健康保険の子どもの均等割の独自支援を高校生まで拡充すること。
2. 学校給食を無償化すること。
3. 学校現場に学習支援または特別支援教育サポート支援員を増員すること。
4. 生活保護世帯の夏場の熱中症対策として光熱費支援をおこなうこと。
5. 高齢者の補聴器購入に対する助成制度をつくること。
6. 带状疱疹予防のワクチン接種に助成すること。
7. 市民や中小業者への物価対策を検討すること。
8. 燃油等の値上がりに対し支援すること。
9. 今年の7月の豪雨での災害復旧では、単なる現況復旧ではなく、国や県と連携し改良復旧に努めること。
10. 農地や農業施設の災害復旧は、地元負担割合をなくすこと。

市内3カ所でアピール

日本共産党
女性後援会

ジェンダー平等社会の実現へ

日本共産党大分県女性後援会は8日、日田市のスーパー前などで宣伝。市内の会員11名が、色とりどりのノボリ旗やプラスタ―を持って市民にアピール。

30代から80代の女性も元気に宣伝行動に参加。しゃべりたい人が自由にマイクを握って、「岸田政権は大軍拡やめて、給食費は無料に」「マイナカード強制ダメ！いまの健康保険証なくさないで」「男女賃金格差なくして」と、市民にアピールしました。



▲ 中央1丁目交差点（福岡銀行前）に並んでアピール。



▲ マルミヤ日田店前の歩道に立ち、買物に来た市民に手を振ってアピールする女性後援会員。

日本共産党創立101周年記念講演会

9月15日（金）午後6時開始
記念講演 志位和夫委員長
「歴史に深く学び、つよく大きな党をー
『日本共産党の百年』を語る」
手話通訳あります。

